

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋東部陸連(株)鷺鴨町	階数	地上1F
建設地	愛知県豊田市鷺鴨町治林131、134	構造	S造
用途地域	指定のない地域、指定なし(法第22条)	平均居住人員	0人
気候区分	5地域	年間使用時間	312時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2016年7月20日
敷地面積	4,490 m <sup>2</sup>	作成者	小川 雄司
建築面積	3,014 m <sup>2</sup>	確認日	2016年7月20日
延床面積	2,993 m <sup>2</sup>	確認者	佐藤 道太郎

外観/パース等

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE=1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 2.7

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 2.9

機能性 耐用性 対応性

**Q3 室外環境 (敷地内)** Q3のスコア= 2.5

生物環境 まちなみ 地域性・

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 3.3

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 3.1

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 3.5

水資源 非再生材料の 汚染物質

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 3.2

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.2</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">12.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3-1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性  
LR-2-2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3-1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3-2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	5.0	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	4.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	4.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	4.0	-	-
1.3 吸音				-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	3.0	-	-
2 外皮性能				-	-	3.0	-	-
3 ソーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	5.0	-	-
2 方位別開口				-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備				-	-	5.0	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	4.0	-	-
3.3 照度				-	-	4.0	-	-
3.4 照明制御				-	-	3.0	-	-
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	5.0	-	-
2 アスベスト対策				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				-	-	4.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	5.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	4.0	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	4.0	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
3 衛生管理業務				-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震				2.7	0.52	-	-	2.7
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性				1.8	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	-
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり				3.2	0.48	-	-	3.2
1 階高のゆとり			3.9m以上	4.2	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.60	4.0	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.40	3.0	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.31	3.0	-	-
1 空調配管の更新性				2.5	0.38	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.17	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.11	-	-	-
6 バックアップスペースの確保	②			1.0	0.22	-	-	-
				3.0	0.22	-	-	-

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-
				3.0	0.50	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								
<b>LR1 エネルギー</b>								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIlm=		-	0.40	-	-	3.1
2 自然エネルギー利用				-	-	-	-	-
<b>3 設備システムの高効率化</b>								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI <sub>lm</sub> =0.36		4.0	1.00	-	-	4.0
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>								
集合住宅以外の評価				2.0	0.40	-	-	2.0
4.1 モニタリング				2.0	1.00	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				1.0	0.50	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	-
				3.0	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>								
<b>1 水資源確保</b>								
1.1 節水				3.0	0.15	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.40	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-
				3.0	0.33	-	-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>								
2.1 材料使用量の削減				3.4	0.63	-	-	3.4
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.25	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		RC-40 構内舗装の路盤		3.0	0.21	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.21	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げが容易に分別可能、構造部材が容易に分解可能		5.0	0.25	-	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4.3	0.22	-	-	4.3
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	-
1 消火剤				5.0	0.68	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材等を使用していない		-	-	-	-	-
3 冷媒				5.0	1.00	-	-	-
				-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>								
<b>1 地球温暖化への配慮</b>								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:69%		4.2	0.33	-	-	4.2
<b>2 地域環境への配慮</b>								
2.1 大気汚染防止				2.4	0.33	-	-	2.4
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.50	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自	浸透型地下調整池設置		2.7	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				4.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
				1.0	0.25	-	-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>								
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>								
1 騒音	独自			3.1	0.33	-	-	3.1
2 振動	独自			3.0	0.40	-	-	-
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>								
1 風害の抑制				3.0	0.33	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	0.40	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
<b>3.3 光害の抑制</b>								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	-	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		広告物照明を行っていない		3.0	0.30	-	-	-
				3.7	0.20	-	-	-
				4.0	0.70	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)名古屋東部陸運(株)鷺鷥町豊田東物流センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:12.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)名古屋東部陸運(株)

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>仮想敷地に隣接する建物との統一感を軸に、周囲の建築物やまちなみとの調和に配慮する。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>事務所がないため評価対象外とした。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>構造体は標準的な耐用性能を確保し、設備に節水型器具を採用した。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地周辺に緑化率10%以上の緑地を計画し、配置や植樹計画の配慮した。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建物をシンプルな整形とし、過剰な設備は設置しない。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水器具の採用、構造部材の選定に配慮した。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地周辺に配慮した配置計画とし、歩行者目線での景観に配慮した。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>